

障発第 0317006 号  
平成 18 年 3 月 17 日

各 都道府県知事 殿

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長

### 市町村審査会の運営について

標記について、「障害程度区分認定に係る市町村審査会による審査及び判定の基準等に関する省令（平成 18 年厚生労働省令第 40 号）」が交付され、4 月 1 日より施行されることになったことに伴い、市町村審査会における障害程度区分の審査判定等の取扱いについて別添によることとしたので、通知する。

なお、本通知は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の規定に基づく技術的な助言であることを申し添える。

(別添)

## 市町村審査会運営要綱

### 1 市町村審査会の基本的考え方

#### (1) 審査会設置の趣旨

- 市町村審査会（都道府県審査会が設置されている場合は都道府県審査会。以下「審査会」という。）は、
  - ・ 障害程度区分認定基準に照らして審査及び判定を行う
  - ・ 市町村が支給要否決定を行うに当たり意見を聴くために設置する機関である。
- これらの業績を合わせて「審査判定」業務という。

#### (2) 障害者自立支援法の規定について

- ① 市町村に、障害程度区分の審査判定業務を行う、及び市町村の支給要否決定を行うに当たり意見を聴くため、審査会を置くこととしている。（第15条）
- ② 審査会の委員の定数は、条例で定めることとなっており、委員は、障害者等の保健又は福祉に関する学識経験者を有する者のうちから市町村長が任命することとなっている。（第16条第1項及び第2項）
- ③ 審査会は、障害程度区分に関する審査判定を行う。（第21条第2項）
- ④ 審査会は、市町村の支給要否決定に当たり意見を述べる。（第22条第3項）

#### (3) 地方自治法上の取り扱い

- ① 審査会は、地方自治法上、自治体の附属機関として位置付けられる。
- ② 審査会の設置については、法律上必置であることから、設置の根拠となる条例は不要であるが、法第16条第1項に基づき委員定数の条例が必要である。
- ③ 委員の身分は、市町村の非常勤特別職となる。

【参考】地方自治法（抄）

（委員会・委員及び附属の設置）

第138条の4 普通地方公共団体にその執行機関として普通地方公共団体の長の外、法律の定めるところにより、委員会又は委員を置く。

2 普通地方公共団体の委員会は、法律の定めるところにより、法令又は普通地方公共団体の条例若しくは規則に違反しない限りにおいて、その

権限に属する事務に関し、規則その他の規程を定めることができる。

- 3 普通地方公共団体は、法律又は条例の定めるところにより、執行機関の附属機関として自治紛争処理委員、審査会、審議会、調査会その他の調停、審査、諮問又は調査のための機関を置くことができる。ただし、政令で定める執行機関については、この限りでない。

(附属機関の職務権限・組織等)

第202条の3 普通地方公共団体の執行機関の附属機関は、法律若しくはこれに基く政令又は条例の定めるところにより、その担任する事項について調停、審査、審議又は調査等を行う機関とする。

- 2 附属機関を組織する委員その他の構成員は、非常勤とする。
- 3 附属機関の庶務は、法律又はこれに基く政令に特別の定があるものを除く外、その属する執行機関において掌るものとする。

## 2 広域化の考え方

(1) 審査会の設置は、次のような形態がある。

- ① 市町村単独で設置、
- ② 広域連合や一部事務組合での対応、
- ③ 機関の共同設置、
- ④ 市町村の委託による都道府県審査会の設置

(2) 都道府県は、管内市町村における審査会設置や審査判定業務が円滑に進むよう、市町村と十分調整し、必要な支援を行う。

## 3 審査会委員について

(1) 委員構成

- 委員は、障害者の実情に通じた者のうちから、障害保健福祉の学識経験を有する者であって、中立かつ公正な立場で審査が行える者を任命する。
- 身体障害、知的障害、精神障害の各分野の均衡に配慮した構成とする。

(2) 学識経験を有する者の判断

- 委員が学識経験を有しているか否かについては、市町村長の判断である。
- 障害者の障害保健福祉の学識経験を有する者であって、中立かつ公正な立場で審査が行える者であれば、障害者を委員に加えることが望ましい。

(3) 市町村との関係

- 審査会における審査判定の公平性を確保するために、市町村職員は、

原則として委員になることはできない。

- ただし、委員の確保が難しい場合は、市町村職員であっても、障害保健福祉の学識経験者であり、かつ認定調査等の事務に直接従事していなければ、委員に委嘱することは差し支えない。

(4) 認定調査員との兼務

- 委員は、原則として当該市町村の認定調査員となれない。
- ただし、他に適当な者がいない等のやむを得ない事情がある場合はこの限りではない。その場合であっても、委員が認定調査を行った対象者の審査判定については、当該委員が所属する合議体では行わない。

(5) 審査会委員の研修

委員は、原則として都道府県が実施する審査会委員に対する研修（市町村審査会委員研修）を受講し、審査及び判定の趣旨、考え方、手続き等を確認する。

(6) 委員数の見込み方

- ① 市町村は、
  - サービス利用者数、
  - 一合議体当たりの審査件数、
  - 設置すべき合議体数及び一合議体当たりの委員数、等から必要な審査会委員数を見込み、条例で定数を定めること。
- ② 条例の定数は、上限数を定めればよいこととする。（例 ○○人以内）

(7) 委員の任期

委員の任期は2年（初回の任期は19年3月末日まで）とし、委員は再任されることができる。

(8) 審査会の会長等

- 審査会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 審査会の会長は、会長に事故あるときにその職務を代行する委員をあらかじめ指名する。

## 5 合議体について

(1) 合議体の設置

審査会は、委員のうちから会長が指名する者をもって構成する合議体で、審査判定業務（障害程度区分の認定及び支給要否決定についての意見）を取り扱うことができる。

(2) 合議体の委員の定数

- 合議体を構成する委員の定数は、5人を標準として市町村長が定める数とする。

- 次の①及び②については、審査判定の質が維持されると市町村が判断した場合には、5人よりも少ない人数を定めることができる。ただし、この場合であっても、少なくとも3人を下回って定めることはできない。
    - ① 障害程度区分認定の更新に係る申請を対象とする場合
    - ② 委員の確保が著しく困難な場合
  - 合議体についても、身体障害、知的障害、精神障害の各分野の均衡に配慮した構成とする。
  - 特定分野の委員の確保が困難な場合にあっては、当該分野の委員を他の分野より多く合議体に所属させることとした上で、審査会の開催にあたって定足数を満たすよう必要な人数が交代で出席する方式でも差し支えない。
  - 審査会に設置する合議体は、一定期間中は固定した構成とすることとするが、いずれの合議体にも所属しない無任所の委員をおいた上で、概ね3月以上の間隔において合議体に所属する委員を変更することは可能である。
  - なお、委員は、所属しない合議体における審査判定に加わることはできない。また、委員確保が特に困難な場合を除き、複数の合議体に同一の委員が所属することは適切ではない。
- (3) 合議体の長の互選
- 合議体に長を1人置き、当該合議体を構成する委員の互選によってこれを定める。
  - 合議体の長が所属する合議体の会議に出席できないときは、当該合議体に所属する委員であって合議体の長があらかじめ指名するものがその職務を代理する。

## 6 審査会の議決

- 審査会（合議体を置く場合は合議体を含む。以下同じ。）は、委員の過半数の出席がなければ、これを開き、議決することができない。
- 審査会は、審査判定にあたり、できるだけ委員間の意見の調整を行い、合意を得るよう努める。
- 審査会の議事は、会長（合議体にあつては合議体の長をいう。以下同じ。）を含む出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

## 7 市町村審査会開催の準備

- 市町村（事務局）は、審査会開催に先立ち、当該開催日の審査会において審査及び判定を行う審査対象者をあらかじめ決めた上で、該当する審査対象者について、以下の資料を作成する。
  - ① 認定調査結果を用いて、市町村に設置された一次判定ソフトによって判定（以下「一次判定」という。）された結果
  - ② 特記事項の写し、医師意見書の写し、概況調査票（サービス利用状況票）の写し
- これらの資料については、氏名、住所など個人を特定する情報について削除した上で、あらかじめ審査会委員に送付する。

## 8 審査判定

審査会は、介護給付に係る申請を行った審査対象者について、「認定調査」及び「特記事項」並びに「医師意見書」に記載された内容に基づき、「障害程度区分認定に係る市町村審査会による審査及び判定の基準等に関する省令（平成18年厚生労働省令第40号）に定める区分に該当することについて、審査及び判定を行う。

### （1）内容の確認精査

- 認定調査の結果について、特記事項及び医師意見書の内容と比較検討し、明らかな矛盾がないか確認する。
- これらの内容に不整合があった場合には再調査を実施するか、必要に応じて医師及び認定調査員に照会した上で認定調査の結果の一部修正が必要と認められる場合には、調査結果の一部修正を行う。
- 調査結果の一部修正を行う場合には、「別紙2 認定調査結果を修正できないケース」を参照する。
- なお、再調査後の審査判定は、原則として前回と同一の審査会において審査判定を行うこととする。

### （2）一次判定結果の変更

- 次に、一次判定の結果（認定調査の結果の一部を修正した場合には、一次判定用ソフトを用いて再度一次判定を行って得られた一次判定の結果（別紙1参照）を原案として、特記事項、医師意見書、B項目群、C項目群（☆）の内容から、通常に比べてより長い（短い）時間の介護を要するかどうか判断し、一次判定の結果を変更して二次判定結果とする。ただし、既に一次判定で評価されているB1項目群（プロセスIで非該当となった場合は、B1及びB2項目群（★）のみをもって重度に変更することはできない。

### (3) 変更の場合の妥当性の検証

一次判定の結果を変更する場合には、

- ① 障害程度区分基準時間の行為の区分毎の時間
- ② 区分変更の例（別紙4）

を参考に一次判定変更の妥当性を検証する。また、一次判定の結果を変更する場合には、「別紙3 二次判定で変更できないケース」を参照する。

#### ☆ A項目群…障害程度区分基準時間の区分を定める項目群

介護保険の要介護認定の認定調査項目と同じ 79 項目

#### B項目群…一次判定の新ロジックにおける区分変更に係わる項目群

- ①調理や買い物ができるかどうかなどの日常生活に関する項目 (B1 項目) 7 項目
- ②多動やこだわりなど行動面に関する項目 (B2 項目) 9 項目

計 16 項目

#### C項目群…障害の特性を補足的に捉えるための項目群（A・B項目群以外）

- ①話がまとまらない、働きかけに応じず動かないなど精神面に関する項目 8 項目
- ②言語以外の手段を用いた説明理解など行動障害に関する項目 2 項目
- ③文字の視覚的認識使用に関する項目 1 項目

計 11 項目

#### ★プロセス I 非該当

介護保険と同じ79項目（A項目群）のみによる一次判定（プロセス I）の結果、非該当であった場合。なお、プロセス IIは、別紙1による判定結果。

## 9 審査会が付する意見

- さらに、特に必要がある場合と判断される場合については、訓練等給付等の有効な利用等に関し留意すべき事項について意見を付することができる。
- 審査会が必要に応じて付する意見について、特に留意すべき点は以下のとおりである。

### ① 認定の有効期間を定める場合の留意事項

「現在の状況がどの程度継続するか」との観点から、以下の場合において認定の有効期間（3年間）をより短く（3ヶ月以上で）設定するかどうかの検討を行う。なお、初回の認定については、市町村事務処理の平準化のため、審査会の意見を踏まえて3年6ヶ月までの範囲内で市町村が有効期間を定めることとなる。

- ・ 身体上または精神上の障害の程度が6カ月～1年程度の間において変動しやすい状態にあると考えられる場合。  
施設から在宅、在宅から施設に変わる等、置かれている環境が大きく変化する場合など、審査判定時の状況が変化する可能性があると考えられる場合。
- ・ その他、審査会が特に必要と認める場合。

② サービスに関して意見を付する場合の留意事項

市町村は、訓練等給付等のサービス利用について審査会の意見が付された場合には、支給決定に当たって、提示されたサービスの利用について十分留意することとする。

10 その他審査及び判定に当たっての留意事項

① 概況調査票等の取り扱いについて

概況調査票（サービス利用状況票等を含む。）及び過去に用いた審査判定資料については、審査会が当該審査対象者の一般的な状態を把握するために参照することは差し支えないが、審査判定の際の直接的な資料としては用いない。（「別紙2 認定調査結果を変更できないケース」及び「別紙3 二次判定で変更できないケースを」参照）

② 委員が審査判定に加われない場合について

市町村は、審査判定を行う合議体に、審査対象者が入院もしくは入所し、又は障害福祉サービスを利用している施設等に所属する委員が含まれないように、審査判定を行う合議体の調整に努める。

審査対象者が入所等をしている施設等に所属する者が、当該合議体に委員として出席している場合には、当該審査対象者の審査及び判定に限って、当該委員は判定に加わることができない。

③ 審査会への委員及び事務局職員以外の参加について

審査会は、審査判定に当たって、必要に応じて、審査対象者及びその家族、医師、認定調査員及びその他の専門家の意見を聞くことができる。

④ 審査会の公開について

審査会は、第三者に対して原則非公開とする。

⑤ 審査会での審査判定に用いた資料の公開について

各市町村の情報公開に関する規程等に基づき判断されることとなるが、審査対象者本人から公開の申し出があった場合、審査会資料は公開されることが望ましい。

⑥ 記録の保存について

審査判定に用いた記録の保存方法等については、必要に応じて各市町



村ごとにその取り扱いを定める。

⑦ 国への報告について

別途定める事項について期日までに国に報告を行う。

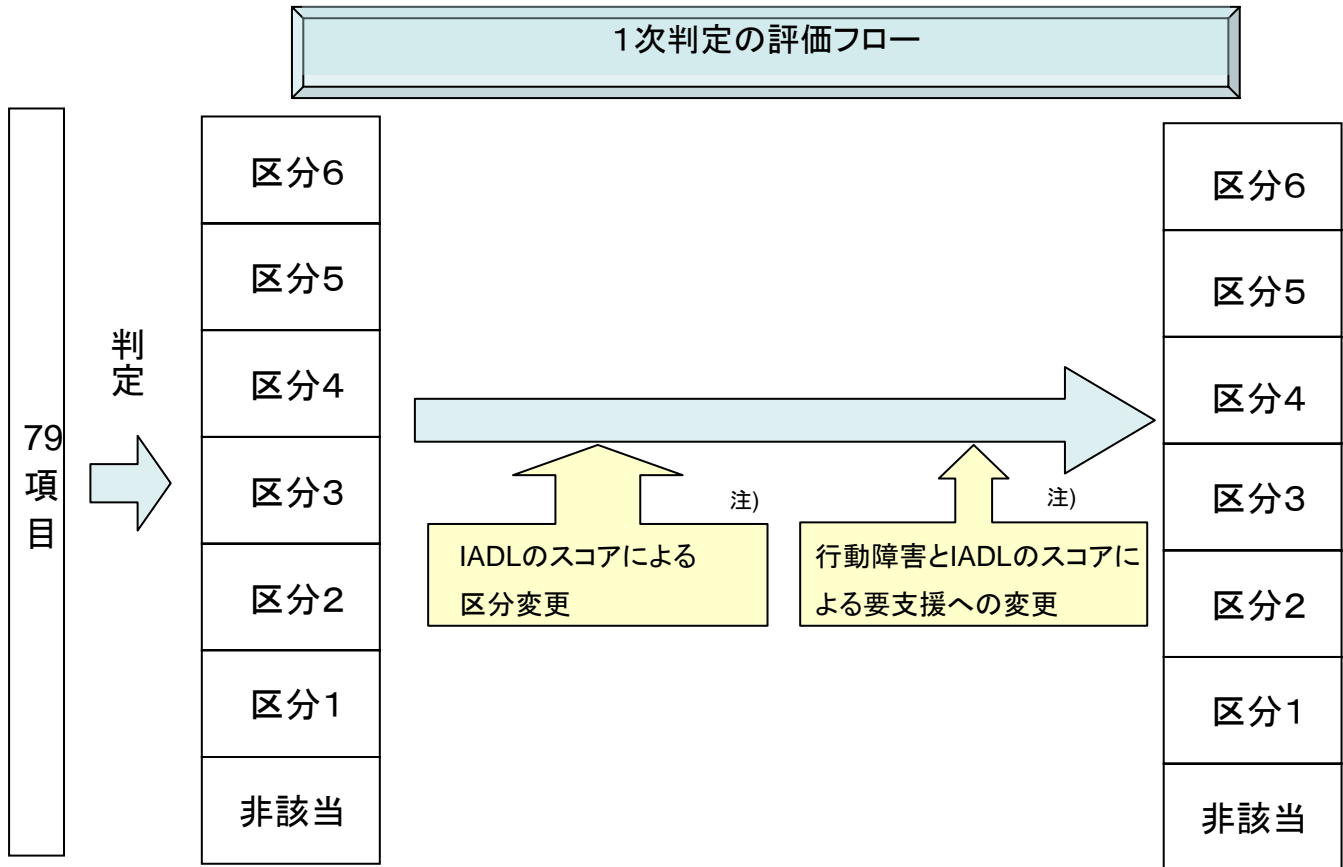
1 1 支給決定案に対する意見

市町村は、当該市町村の支給基準と乖離する支給決定案を作成した場合、その妥当性について審査会に意見を聞くことができる。審査会は、市町村から意見を求められた場合は、意見を述べることとする。

## 一次判定結果について

- ① 「障害程度区分認定に係る市町村審査会による審査及び判定の基準等に関する省令（平成 18 年厚生労働省令第 40 号）」の第 2 条第 1 号から第 6 号の各号のいずれかのイに該当する区分を一次判定結果とする。
  
- ② ただし、以下の条件を満たす場合は、①に基づく区分より、1 段階又は 2 段階の重度の区分を一次判定結果とする。
  - ・ 表 1 に基づく IADL スコアについて、図に示す回帰分析を行った結果得られる変数〔X 3〕が 1 以上 1.5 未満のとき第 1 段階、1.5 以上の場合 2 段階の変更とする。
  
  - ・ 表 1 に基づく IADL スコアが 1.28 以上又は表 2 に基づく行動障害スコアが 0.07 以上の場合、非該当から区分 1 へ変更する。

図 1 次判定結果の算出方法



注) スコアによる区分変更ロジック

[X1]~[X4]の変数については、以下の数値を当てる。

区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当
変数[X1]	7	6	5	4	3	2	1

- 79調査項目を使用して障害程度区分基準時間から区分を算出し、変数[X1]を算出する。
- IADLスコア(S1)、行動障害スコア(S2)を表1, 2に基づいて算出する。
- 以下の数式に当てはめ、変数[X2]を算出する。  

$$[X2]=0.6903*[X1]+0.1796*(S1)+1.1148$$
- 以下の計算を行い、変数[X3], [X4]を算出する。  

$$[X3]=[X2]-[X1]$$
  - [X3]<1 の場合、
    - ①[X1]=1(非該当)であり、S1>1.28 又は S2>0.07 の場合、[X4]=[X1]+1
    - ②上記以外の場合、[X4]=[X1]
  - $1 \leq [X3] < 1.5$  の場合、[X4]=[X1]+1
  - $1.5 \leq [X3]$  の場合、[X4]=[X1]+2
- [X1], [X4]を一次判定の候補とし、区分として表記する:[X1]→[X4]

## IADLのスコア、行動障害のスコアの算出

表1 IADLスコア表

調理(献立を含む)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
食事の配膳・下膳(運ぶこと)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
掃除(整理整頓を含む)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
洗濯	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
入浴の準備と後片付け	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
買い物	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
交通手段の利用	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0

※各項目の点数を総計した点数について、7点満点(全項目が全介助)を6点満点に置き直して再計算した結果値をスコアとする。

表2 行動障害スコア表

泣いたり、笑ったりして感情が不安定になる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
暴言や暴行	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
大声をだす	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
助言や介護に抵抗する	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
目的もなく動き回る	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
「家に帰る」等と言い落ち着きがない	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
1人で外に出たがり目が離せない	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
いろいろなものを集めたり、無断でもってくる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
物や衣類を壊したり、破いたりする	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
特定の物や人に対する強いこだわり	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
多動または行動の停止	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
パニックや不安定な行動	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
自分の体を叩いたり傷つけるなどの行為	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
叩いたり蹴ったり器物を壊したりなどの行為	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
他人に突然抱きついたり、断りもなく物を持ってくる	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
環境の変化により、突発的に通常と違う声を出す	ない	0	希にある	0.25	週に1回以上	0.5	日に1回以上	0.75	日に頻回	1.0
突然走っていなくなるような突発的行動	ない	0	希にある	0.25	週に1回以上	0.5	日に1回以上	0.75	日に頻回	1.0
再三の手洗いや、繰り返しの確認のため、日常動作に時間がかかる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				

※各項目の点数を総計した点数について、19点満点(全項目が最高点)を6点満点に置き直して再計算した結果値をスコアとする。

## 認定調査結果を変更できないケース

以下の事項に基づいて認定調査の調査結果の一部修正を行うことはできない。ただし、認定調査では得られなかった状況が特記事項又は医師意見書の内容（審査会における認定調査員及び医師の発言を含む。以下同じ。）等によって新たに明らかになった場合は必要に応じて変更を行うことができる。

### 1) 既に当初の一次判定の結果で勘案された心身の状況

#### (1) 認定調査の調査結果と一致する特記事項の内容

特記事項の内容が認定調査の調査結果と一致し、特に新たな状況が明らかになっていない場合は、その内容に基づいて認定調査結果の一部修正を行うことはできない。

#### (2) 認定調査結果と一致する医師意見書の内容

医師意見書の内容が認定調査の調査結果と一致し、特に新たな状況が明らかになっていない場合は、その内容に基づいて認定調査結果の一部修正を行うことはできない。

### 2) 根拠のない事項

#### (1) 特記事項又は医師意見書に基づかない審査対象者の状況

特記事項又は医師意見書の内容に特に記載がない場合は、記載されていない内容に基づいて認定調査結果の一部修正を行うことはできない。

## 二次判定で変更できないケース

以下の事項に基づいて一次判定の結果の変更を行うことはできない。ただし、特記事項又は医師意見書の内容に基づいて介護に要する時間が延長又は短縮していると判断される場合は一次判定の結果の変更を行うことができる。

### 1) 既に当初の一次判定の結果で勘案された心身の状況

#### (1) 認定調査の調査結果と一致する特記事項の内容

特記事項の内容が認定調査の調査結果と一致し、特に新たな状況が明らかになっていない場合は、その内容に基づいて一次判定の結果の変更を行うことはできない。

#### (2) 認定調査結果と一致する医師意見書の内容

医師意見書の内容が認定調査の調査結果と一致し、特に新たな状況が明らかになっていない場合は、その内容に基づいて一次判定の結果の変更を行うことはできない。

### 2) 根拠のない変更

#### (1) 特記事項又は医師意見書に基づかない審査対象者の状況

特記事項又は医師意見書に特に記載されていない状況を理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

### 3) 介護に要する時間とは直接的に関係しない事項

#### (1) 年齢

審査対象者の年齢を理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

#### (2) 行為に要する時間

ある行為について時間がかかっていることを理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

ただし、その行為に関し、特記事項又は医師意見書に記載されている内容に基づき、実際に受けている支援の具体的内容から心身の状況を判断すると、介護に要する時間が延長又は短縮していると判断される場合は変更を行うことができる。

#### 4) 心身の状況以外の状況

障害程度区分は、障害者の心身の状態を総合的に表す区分（法第4条第4項）であり、その判定に当たっては、下記の（1）～（4）のような心身の状況以外の状況については、考慮事項とはならない。なお、これらの事項は、障害程度区分認定後、支給決定の段階において、障害程度区分とともに、サービス量等について検討する際に勘案されることとなる。

##### （1）施設入所・在宅の別、住宅環境、家族介護者の有無

施設入所しているか又は在宅であるか、審査対象者の住宅環境、家族介護者の有無を理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

ただし、特記事項又は医師意見書に記載されている内容に基づき、居住環境や介護者の状況の変化に伴い本人の心身の状況に大きな変化が生じることが予測され、介護に要する時間が延長又は短縮すると判断される場合は変更を行うことができる。

##### （2）抽象的な介護の必要性

特記事項又は医師意見書に、「介護の必要性が高い」等の抽象的な介護の必要性に関する記載のみがあり、具体的な状況に関する記載がない場合は、その内容を理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

##### （3）審査対象者の希望

特記事項又は医師意見書に、「本人は介護給付を希望している」等の記載があることを理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

##### （4）現に受けているサービス

特記事項又は医師意見書に、「現に介護サービスを受けている」等の記載があることを理由として一次判定の結果の変更を行うことはできない。

(事例)

○50歳 女性 視覚障害

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	非該当	非該当	区分1
障害程度区分基準時間:	23.8分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	4.2分	7.3分	0.4分	3.2分	6.5分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果	行動	調査結果
麻痺拘縮			7 ア	被害的
1-1	麻痺(左-上肢)		7 イ	作話
	麻痺(右-上肢)		7 ウ	幻視幻聴
	麻痺(左-下肢)		7 エ	感情が不安定
	麻痺(右-下肢)		7 オ	昼夜逆転
	麻痺(その他)		7 カ	暴言暴行
1-2	拘縮(肩関節)		7 キ	同じ話をする
	拘縮(肘関節)		7 ク	大声を出す
	拘縮(股関節)		7 ケ	介護に抵抗
	拘縮(膝関節)		7 コ	常時の徘徊
	拘縮(足関節)		7 サ	落ち着きなし
拘縮(その他)		7 シ	外出して戻れない	
移動			7 ス	1人で出たがる
2-1	寝返り		7 セ	収集癖
2-2	起き上がり		7 ソ	火の不始末
2-3	座位保持		7 タ	物や衣類を壊す
2-4	両足での立位		7 チ	不潔行為
2-5	歩行		7 ツ	異食行動
2-6	移乗		7 テ	ひどい物忘れ
2-7	移動	一部介助	特別な医療	
複雑動作			8-1	点滴の管理
3-1	立ち上がり		8-2	中心静脈栄養
3-2	片足での立位		8-3	透析
3-3	洗身		8-4	ストマの処置
特別介護			8-5	酸素療法
4-1ア	じょくそう		8-6	レスピレーター
4-1イ	皮膚疾患		8-7	気管切開の処置
4-2	えん下		8-8	疼痛の看護
4-3	食事摂取		8-9	経管栄養
4-4	飲水		8-10	モニター測定
4-5	排尿		8-11	じょくそうの処置
4-6	排便		8-12	カテーテル
身の回り			B1項目群	
5-1ア	口腔清潔		9-1	調理
5-1イ	洗顔		9-2	食事の配下膳
5-1ウ	整髪		9-3	掃除
5-1エ	つめ切り		9-4	洗濯
5-2ア	上衣の着脱		9-5	入浴の準備片付け
5-2イ	ズボン等の着脱		9-6	買い物
5-3	薬の内服		9-7	交通手段の利用
5-4	金銭の管理			見守り、一部介助
5-5	電話の利用			見守り、一部介助
5-6	日常の意思決定		B2項目群	
意思疎通			7 ト	こだわり
6-1	視力	ほとんど見えず	7 ナ	多動・行動停止
6-2	聴力		7 ニ	不安定な行動
6-3ア	意思の伝達		7 ヌ	自ら叩く等の行為
6-4ア	指示への反応		7 ネ	他を叩く等の行為
6-5ア	毎日の日課を理解		7 ノ	興味等による行動
6-5イ	生年月日をいう		7 ハ	通常と違う声
6-5ウ	短期記憶		7 ヒ	突発的行動
6-5エ	自分の名前をいう		7 ホ	反復的行動
6-5オ	今の季節を理解		C項目群	
6-5カ	場所の理解		6-3-1	独自の意思伝達
			6-4-1	説明の理解
			7 フ	過食、反すう等
			7 ヘ	憂鬱で悲観的
			7 マ	対人面の不安緊張
			7 ミ	意欲が乏しい
			7 ム	話がまとまらない
			7 メ	集中力が続かない
			7 モ	自己の過大評価
			7 ヤ	疑い深く拒否的
			9-8	文字の視覚的認識
				一部介助

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	87.5	99.9	100.0	100.0	86.9	100.0

7 ナ	多動・行動停止	
7 ニ	不安定な行動	
7 ヌ	自ら叩く等の行為	
7 ネ	他を叩く等の行為	
7 ノ	興味等による行動	
7 ハ	通常と違う声	
7 ヒ	突発的行動	
7 ホ	反復的行動	
9-8	文字の視覚的認識	一部介助



非該当 → 区分Ⅰ その2

(事例)

○30歳 女性 中度知的障害  
 ○発音が不明瞭で会話が通じないことがある。  
 ○初対面の人とは会話できない。集団参加は一人できない。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	非該当	非該当	区分Ⅰ
障害程度区分基準時間:	23.2分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	4.2分	7.3分	0.4分	3.2分	5.9分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				7 ア 被害的			
1-1	麻痺(左-上肢)			7 イ 作話			
	麻痺(右-上肢)			7 ウ 幻視幻聴			
	麻痺(左-下肢)			7 エ 感情が不安定			
	麻痺(右-下肢)			7 オ 昼夜逆転			
	麻痺(その他)			7 カ 暴言暴行			
1-2	拘縮(肩関節)			7 キ 同じ話をする			
	拘縮(肘関節)			7 ク 大声を出す			
	拘縮(股関節)			7 ケ 介護に抵抗			
	拘縮(膝関節)			7 コ 常時の徘徊			
	拘縮(足関節)			7 サ 落ち着きなし			
	拘縮(その他)			7 シ 外出して戻れない			
<b>移動</b>				7 ス 1人で出たがる			
2-1	寝返り			7 セ 収集癖			
2-2	起き上がり			7 ソ 火の不始末			
2-3	座位保持			7 タ 物や衣類を壊す			
2-4	両足での立位			7 チ 不潔行為			
2-5	歩行			7 ツ 異食行動			
2-6	移乗			7 テ ひどい物忘れ			
2-7	移動			<b>特別な医療</b>			
<b>複雑動作</b>				8-1 点滴の管理			
3-1	立ち上がり			8-2 中心静脈栄養			
3-2	片足での立位			8-3 透析			
3-3	洗身			8-4 ストーマの処置			
<b>特別介護</b>				8-5 酸素療法			
4-1ア	じょくそう			8-6 レスピレーター			
4-1イ	皮膚疾患			8-7 気管切開の処置			
4-2	えん下			8-8 疼痛の看護			
4-3	食事摂取			8-9 経管栄養			
4-4	飲水			8-10 モニター測定			
4-5	排尿			8-11 じょくそうの処置			
4-6	排便			8-12 カテーテル			
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1ア	口腔清潔			9-1 調理			
5-1イ	洗顔			9-2 食事の配下膳			
5-1ウ	整髪			9-3 掃除		見守り、一部介助	
5-1エ	つめ切り			9-4 洗濯			
5-2ア	上衣の着脱			9-5 入浴の準備片付け			
5-2イ	ズボン等の着脱			9-6 買い物			
5-3	薬の内服			9-7 交通手段の利用		見守り、一部介助	
5-4	金銭の管理		一部介助	<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用			7 ト こだわり			
5-6	日常の意思決定		特別な場合以外不可	7 ナ 多動・行動停止			
<b>意思疎通</b>				7 ニ 不安定な行動			
6-1	視力			7 ヌ 自ら叩く等の行為			
6-2	聴力			7 ネ 他を叩く等の行為			
6-3ア	意思の伝達			7 ノ 興味等による行動			
6-4ア	指示への反応			7 ハ 通常と違う声			
6-5ア	毎日の日課を理解			7 ヒ 突発的行動			
6-5イ	生年月日をいう			7 ホ 反復的行動			
6-5ウ	短期記憶			<b>C項目群</b>			
6-5エ	自分の名前をいう			6-3-1 独自の意思伝達			
6-5オ	今の季節を理解			6-4-1 説明の理解			
6-5カ	場所の理解			7 フ 過食、反すう等			

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	100.0	89.6	100.0	100.0

7 ミ 意欲が乏しい	ときどきある
7 ム 話がまとまらない	
7 メ 集中力が続かない	
7 モ 自己の過大評価	ときどきある
7 ヤ 疑い深く拒否的	
9-8 文字の視覚的認識	

## 非該当 → 区分1 その3

**(事例)**

○60歳 男性 統合失調症  
○2軸評価 精神症状3点、能力障害3点

	プロセス I	プロセス II	2次判定
<b>判定結果:</b>	<b>非該当</b>	<b>非該当</b>	<b>区分1</b>
障害程度区分基準時間:	23.8分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	4.2分	7.3分	0.4分	3.2分	6.5分

### 2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				<b>7 ア</b> 被害的			
1-1	麻痺(左-上肢)			<b>7 イ</b> 作話			
	麻痺(右-上肢)			<b>7 ウ</b> 幻視幻聴			
	麻痺(左-下肢)			<b>7 エ</b> 感情が不安定			
	麻痺(右-下肢)			<b>7 オ</b> 昼夜逆転			
	麻痺(その他)			<b>7 カ</b> 暴言暴行			
1-2	拘縮(肩関節)			<b>7 キ</b> 同じ話をする			
	拘縮(肘関節)			<b>7 ク</b> 大声を出す			
	拘縮(股関節)			<b>7 ケ</b> 介護に抵抗			
	拘縮(膝関節)			<b>7 コ</b> 常時の徘徊			
	拘縮(足関節)			<b>7 サ</b> 落ち着きなし			
	拘縮(その他)			<b>7 シ</b> 外出して戻れない			
<b>移動</b>				<b>7 ス</b> 1人で出たがる			
2-1	寝返り			<b>7 セ</b> 収集癖			
2-2	起き上がり			<b>7 ソ</b> 火の不始末			
2-3	座位保持			<b>7 タ</b> 物や衣類を壊す			
2-4	両足での立位			<b>7 チ</b> 不潔行為			
2-5	歩行			<b>7 ツ</b> 異食行動			
2-6	移乗			<b>7 テ</b> ひどい物忘れ			
2-7	移動			<b>特別な医療</b>			
<b>複雑動作</b>				<b>8-1</b> 点滴の管理			
3-1	立ち上がり			<b>8-2</b> 中心静脈栄養			
3-2	片足での立位			<b>8-3</b> 透析			
3-3	洗身			<b>8-4</b> ストマの処置			
<b>特別介護</b>				<b>8-5</b> 酸素療法			
4-1 ア.	じょくそう			<b>8-6</b> レスピレーター			
4-1 イ.	皮膚疾患			<b>8-7</b> 気管切開の処置			
4-2	えん下			<b>8-8</b> 疼痛の看護			
4-3	食事摂取			<b>8-9</b> 経管栄養			
4-4	飲水			<b>8-10</b> モニター測定			
4-5	排尿			<b>8-11</b> じょくそうの処置			
4-6	排便			<b>8-12</b> カテーテル			
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1ア.	口腔清潔		一部介助	<b>9-1</b> 調理			
5-1イ.	洗顔		一部介助	<b>9-2</b> 食事の配下膳			
5-1ウ.	整髪		一部介助	<b>9-3</b> 掃除			
5-1エ.	つめ切り			<b>9-4</b> 洗濯			
5-2ア.	上衣の着脱			<b>9-5</b> 入浴の準備片付け			
5-2イ.	ズボン等の着脱			<b>9-6</b> 買い物			
5-3	薬の内服			<b>9-7</b> 交通手段の利用			
5-4	金銭の管理			<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用			<b>7 ト</b> こだわり			
5-6	日常の意思決定			<b>7 ナ</b> 多動・行動停止			
<b>意思疎通</b>				<b>7 ニ</b> 不安定な行動			
6-1	視力			<b>7 ヌ</b> 自ら叩く等の行為			
6-2	聴力			<b>7 ネ</b> 他を叩く等の行為			
6-3-ア	意思の伝達			<b>7 ノ</b> 興味等による行動			
6-4-ア	指示への反応			<b>7 ハ</b> 通常と違う声			
6-5ア.	毎日の日課を理解			<b>7 ヒ</b> 突発的行動			
6-5イ.	生年月日をいう			<b>7 ホ</b> 反復的行動			
6-5ウ.	短期記憶			<b>C項目群</b>			
6-5エ.	自分の名前をいう			<b>6-3-イ</b> 独自の意思伝達			
6-5オ.	今の季節を理解			<b>6-4-イ</b> 説明の理解			
6-5カ.	場所の理解			<b>7 フ</b> 過食、反すう等			
<b>3 中間評価項目得点表</b>				<b>7 ヘ</b> 憂鬱で悲観的			
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動	
100.0	100.0	99.9	100.0	86.5	100.0	100.0	ときどきある
				<b>7 マ</b> 対人面の不安緊張			
				<b>7 ミ</b> 意欲が乏しい			
				<b>7 ム</b> 話がまとまらない			
				<b>7 メ</b> 集中力が続かない			
				<b>7 モ</b> 自己の過大評価			
				<b>7 ヤ</b> 疑い深く拒否的			
				<b>9-8</b> 文字の視覚的認識			

### 3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	100.0	86.5	100.0	100.0

<b>7 ト</b>	こだわり	
<b>7 ナ</b>	多動・行動停止	
<b>7 ニ</b>	不安定な行動	
<b>7 ヌ</b>	自ら叩く等の行為	
<b>7 ネ</b>	他を叩く等の行為	
<b>7 ノ</b>	興味等による行動	
<b>7 ハ</b>	通常と違う声	
<b>7 ヒ</b>	突発的行動	
<b>7 ホ</b>	反復的行動	
<b>C項目群</b>		
<b>6-3-イ</b>	独自の意思伝達	
<b>6-4-イ</b>	説明の理解	
<b>7 フ</b>	過食、反すう等	
<b>7 ヘ</b>	憂鬱で悲観的	ときどきある
<b>7 マ</b>	対人面の不安緊張	
<b>7 ミ</b>	意欲が乏しい	
<b>7 ム</b>	話がまとまらない	
<b>7 メ</b>	集中力が続かない	
<b>7 モ</b>	自己の過大評価	
<b>7 ヤ</b>	疑い深く拒否的	
<b>9-8</b>	文字の視覚的認識	

区分1 → 区分2 その1

(事例)

○60歳 女性 視覚障害・聴覚障害  
○通院や買い物以外外出することはほとんどない。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分1	区分1	区分2
障害程度区分基準時間:	28.1分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	5.7分	9.1分	0.4分	3.2分	7.5分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
麻痺拘縮				7 ア	被害的		
1-1	麻痺(左-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(右-上肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(左-下肢)			7 エ	感情が不安定		
	麻痺(右-下肢)			7 オ	昼夜逆転		
	麻痺(その他)			7 カ	暴言暴行		
1-2	拘縮(肩関節)			7 キ	同じ話をする		
	拘縮(肘関節)			7 ク	大声を出す		
	拘縮(股関節)			7 ケ	介護に抵抗		
	拘縮(膝関節)			7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(足関節)			7 サ	落ち着きなし		
	拘縮(その他)			7 シ	外出して戻れない		
移動				7 ス	1人で出たがる		
2-1	寝返り			7 セ	収集癖		
2-2	起き上がり			7 ソ	火の不始末		
2-3	座位保持			7 タ	物や衣類を壊す		
2-4	両足での立位			7 チ	不潔行為		
2-5	歩行			7 ツ	異食行動		
2-6	移乗			7 テ	ひどい物忘れ		
2-7	移動			特別な医療			
複雑動作				8-1	点滴の管理		
3-1	立ち上がり			8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位			8-3	透析		
3-3	洗身			8-4	ストマの処置		
特別介護				8-5	酸素療法		
4-1ア.	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1イ.	皮膚疾患			8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下			8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取			8-9	経管栄養		
4-4	飲水			8-10	モニター測定		
4-5	排尿			8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便			8-12	カテーテル		
身の回り				B1項目群			
5-1ア.	口腔清潔			9-1	調理		見守り、一部介助
5-1イ.	洗顔			9-2	食事の配下膳		見守り、一部介助
5-1ウ.	整髪			9-3	掃除		見守り、一部介助
5-1エ.	つめ切り		全介助	9-4	洗濯		
5-2ア.	上衣の着脱			9-5	入浴の準備片付け		
5-2イ.	ズボン等の着脱			9-6	買い物		見守り、一部介助
5-3	薬の内服		一部介助	9-7	交通手段の利用		全介助
5-4	金銭の管理		一部介助	B2項目群			
5-5	電話の利用			7 ト	こだわり		
5-6	日常の意思決定			7 ナ	多動・行動停止		
意思疎通				7 ニ	不安定な行動		
6-1	視力		ほとんど見えず	7 ヌ	自ら叩く等の行為		
6-2	聴力		ほとんど聞こえず	7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3ア	意思の伝達			7 ノ	興味等による行動		
6-4ア	指示への反応			7 ハ	通常と違う声		
6-5ア.	毎日の日課を理解			7 ヒ	突発的行動		
6-5イ.	生年月日をいう			7 ホ	反復的行動		ときどきある
6-5ウ.	短期記憶			C項目群			
6-5エ.	自分の名前をいう			6-3-1	独自の意思伝達		
6-5オ.	今の季節を理解			6-4-1	説明の理解		
6-5カ.	場所の理解			7 フ	過食、反すう等		
3 中間評価項目得点表				7 ヘ	憂鬱で悲観的		ときどきある
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 マ	対人面の不安緊張		ときどきある
100.0	100.0	99.9	100.0	7 ミ	意欲が乏しい		ときどきある
				7 ム	話がまとまらない		
				7 メ	集中力が続かない		ときどきある
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		全介助

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	100.0	80.1	71.9	100.0

区分1 →区分2 その2

(事例)  
 ○50歳 女性 軽度知的障害  
 ○髪の毛を引っ張る、突然しゃべり出す等の行動もあるが服薬はしていない。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分1	区分1	区分2
障害程度区分基準時間:	26.8分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	2.4分	2.7分	4.2分	7.3分	0.4分	3.2分	5.9分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果
麻痺拘縮		
1-1	麻痺(左-上肢)	
	麻痺(右-上肢)	
	麻痺(左-下肢)	
	麻痺(右-下肢)	
	麻痺(その他)	
1-2	拘縮(肩関節)	
	拘縮(肘関節)	
	拘縮(股関節)	
	拘縮(膝関節)	
	拘縮(足関節)	
移動		
2-1	寝返り	
2-2	起き上がり	
2-3	座位保持	
2-4	両足での立位	
2-5	歩行	
2-6	移乗	
2-7	移動	
複雑動作		
3-1	立ち上がり	
3-2	片足での立位	
3-3	洗身	一部介助
特別介護		
4-1ア	じょくそう	
4-1イ	皮膚疾患	
4-2	えん下	
4-3	食事摂取	
4-4	飲水	
4-5	排尿	
4-6	排便	
身の回り		
5-1ア	口腔清潔	一部介助
5-1イ	洗顔	一部介助
5-1ウ	整髪	一部介助
5-1エ	つめ切り	一部介助
5-2ア	上衣の着脱	
5-2イ	ズボン等の着脱	
5-3	薬の内服	一部介助
5-4	金銭の管理	一部介助
5-5	電話の利用	
5-6	日常の意思決定	特別な場合以外可
意思疎通		
6-1	視力	
6-2	聴力	
6-3-ア	意思の伝達	
6-4-ア	指示への反応	
6-5ア	毎日の日課を理解	
6-5イ	生年月日をいう	
6-5ウ	短期記憶	
6-5エ	自分の名前をいう	
6-5オ	今の季節を理解	
6-5カ	場所の理解	

行動		調査結果
7 ア	被害的	
7 イ	作話	
7 ウ	幻視幻聴	
7 エ	感情が不安定	
7 オ	昼夜逆転	
7 カ	暴言暴行	
7 キ	同じ話をする	
7 ク	大声を出す	
7 ケ	介護に抵抗	
7 コ	常時の徘徊	
7 サ	落ち着きなし	
7 シ	外出して戻れない	
7 ス	1人で出たがる	
7 セ	収集癖	
7 ソ	火の不始末	
7 タ	物や衣類を壊す	
7 チ	不潔行為	
7 ツ	異食行動	
7 テ	ひどい物忘れ	
特別な医療		
8-1	点滴の管理	
8-2	中心静脈栄養	
8-3	透析	
8-4	ストマの処置	
8-5	酸素療法	
8-6	レスピレーター	
8-7	気管切開の処置	
8-8	疼痛の看護	
8-9	経管栄養	
8-10	モニター測定	
8-11	じょくそうの処置	
8-12	カテーテル	

B1項目群		調査結果
9-1	調理	全介助
9-2	食事の配下膳	
9-3	掃除	見守り、一部介助
9-4	洗濯	見守り、一部介助
9-5	入浴の準備片付け	
9-6	買い物	見守り、一部介助
9-7	交通手段の利用	見守り、一部介助

B2項目群		調査結果
7 ト	こだわり	
7 ナ	多動・行動停止	
7 ニ	不安定な行動	
7 ヌ	自ら叩く等の行為	
7 ネ	他を叩く等の行為	
7 ノ	興味等による行動	
7 ハ	通常と違う声	
7 ヒ	突発的行動	
7 ホ	反復的行動	

C項目群		調査結果
6-3-イ	独自の意思伝達	
6-4-イ	説明の理解	
7 フ	過食、反すう等	
7 ヘ	憂鬱で悲観的	ときどきある
7 マ	対人面の不安緊張	
7 ミ	意欲が乏しい	
7 ム	話がまとまらない	
7 メ	集中力が続かない	
7 モ	自己の過大評価	
7 ヤ	疑い深く拒否的	
9-8	文字の視覚的認識	

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	100.0	100.0	63.6	100.0	100.0

区分1 → 区分2 その3

(事例)

○50歳 女性 妄想、家族への抵抗あり  
○2軸評価 精神症状3点、能力障害3点

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分1	区分1	区分2
障害程度区分基準時間:	27.7分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	4.2分	7.3分	0.4分	3.2分	10.4分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>							
1-1	麻痺(左-上肢)			7 ア	被害的		
	麻痺(右-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(左-下肢)			7 ウ	幻視幻聴		ときどきある
	麻痺(右-下肢)			7 エ	感情が不安定		
	麻痺(その他)			7 オ	昼夜逆転		
1-2	拘縮(肩関節)			7 カ	暴言暴行		
	拘縮(肘関節)			7 キ	同じ話をする		ときどきある
	拘縮(股関節)			7 ク	大声を出す		
	拘縮(膝関節)			7 ケ	介護に抵抗		
	拘縮(足関節)			7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(その他)			7 サ	落ち着きなし		
<b>移動</b>				7 シ	外出して戻れない		
2-1	寝返り			7 ス	1人で出たがる		
2-2	起き上がり			7 セ	収集癖		
2-3	座位保持			7 ソ	火の不始末		
2-4	両足での立位			7 タ	物や衣類を壊す		
2-5	歩行			7 チ	不潔行為		
2-6	移乗			7 ツ	異食行動		
2-7	移動			7 テ	ひどい物忘れ		
<b>複雑動作</b>				<b>特別な医療</b>			
3-1	立ち上がり			8-1	点滴の管理		
3-2	片足での立位			8-2	中心静脈栄養		
3-3	洗身			8-3	透析		
<b>特別介護</b>				8-4	ストーマの処置		
4-1ア.	じょくそう			8-5	酸素療法		
4-1イ.	皮膚疾患			8-6	レスピレーター		
4-2	えん下			8-7	気管切開の処置		
4-3	食事摂取			8-8	疼痛の看護		
4-4	飲水			8-9	経管栄養		
4-5	排尿			8-10	モニター測定		
4-6	排便			8-11	じょくそうの処置		
<b>身の回り</b>				8-12	カテーテル		
5-1ア.	口腔清潔			<b>B1項目群</b>			
5-1イ.	洗顔			9-1	調理		見守り、一部介助
5-1ウ.	整髪			9-2	食事の配下膳		
5-1エ.	つめ切り			9-3	掃除		
5-2ア.	上衣の着脱			9-4	洗濯		
5-2イ.	ズボン等の着脱			9-5	入浴の準備片付け		
5-3	薬の内服			9-6	買い物		見守り、一部介助
5-4	金銭の管理		一部介助	9-7	交通手段の利用		
5-5	電話の利用			<b>B2項目群</b>			
5-6	日常の意思決定			7 ト	こだわり		
<b>意思疎通</b>				7 ナ	多動・行動停止		
6-1	視力			7 ニ	不安定な行動		
6-2	聴力			7 ハ	自ら叩く等の行為		
6-3-ア	意思の伝達			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-4-ア	指示への反応			7 ノ	興味等による行動		
6-5ア.	毎日の日課を理解			7 ハ	通常と違う声		
6-5イ.	生年月日をいう			7 ヒ	突発的行動		
6-5ウ.	短期記憶			7 ホ	反復的行動		
6-5エ.	自分の名前をいう			<b>C項目群</b>			
6-5オ.	今の季節を理解			6-3-イ	独自の意思伝達		
6-5カ.	場所の理解			6-4-イ	説明の理解		
<b>3 中間評価項目得点表</b>				7 フ	過食、反すう等		ときどきある
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 ヘ	憂鬱で悲観的		
100.0	100.0	99.9	100.0	7 マ	対人面の不安緊張		
				7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		ときどきある
				7 メ	集中力が続かない		
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	100.0	94.0	100.0	95.4

区分2 → 区分3 その1

(事例)

○35歳 女性 肢体不自由・視覚障害

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分2	区分2	区分3
障害程度区分基準時間:	41.7分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	8.6分	14.7分	2.6分	7.1分	6.5分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果	行動	調査結果
麻痺拘縮			7 ア 被害的	
1-1	麻痺(左一上肢)		7 イ 作話	
	麻痺(右一上肢)	ある	7 ウ 幻視幻聴	
	麻痺(左一下肢)		7 エ 感情が不安定	ときどきある
	麻痺(右一下肢)	ある	7 オ 昼夜逆転	ときどきある
	麻痺(その他)		7 カ 暴言暴行	
1-2	拘縮(肩関節)	ある	7 キ 同じ話をする	
	拘縮(肘関節)		7 ク 大声を出す	
	拘縮(股関節)		7 ケ 介護に抵抗	
	拘縮(膝関節)		7 コ 常時の徘徊	ときどきある
	拘縮(足関節)		7 サ 落ち着きなし	
拘縮(その他)		7 シ 外出して戻れない		
移動			7 ス 1人で出たがる	
2-1	寝返り		7 セ 収集癖	
2-2	起き上がり		7 ソ 火の不始末	
2-3	座位保持		7 タ 物や衣類を壊す	
2-4	両足での立位		7 チ 不潔行為	
2-5	歩行		7 ツ 異食行動	
2-6	移乗		7 テ ひどい物忘れ	ときどきある
2-7	移動	一部介助	特別な医療	
複雑動作			8-1	点滴の管理
3-1	立ち上がり		8-2	中心静脈栄養
3-2	片足での立位		8-3	透析
3-3	洗身		8-4	ストマの処置
特別介護			8-5	酸素療法
4-1ア	じょくそう		8-6	レスピレーター
4-1イ	皮膚疾患		8-7	気管切開の処置
4-2	えん下		8-8	疼痛の看護
4-3	食事摂取		8-9	経管栄養
4-4	飲水		8-10	モニター測定
4-5	排尿		8-11	じょくそうの処置
4-6	排便		8-12	カテーテル
身の回り			B1項目群	
5-1ア	口腔清潔		9-1	調理
5-1イ	洗顔		9-2	食事の配下膳
5-1ウ	整髪		9-3	掃除
5-1エ	つめ切り		9-4	洗濯
5-2ア	上衣の着脱		9-5	入浴の準備片付け
5-2イ	ズボン等の着脱		9-6	買い物
5-3	薬の内服	一部介助	9-7	交通手段の利用
5-4	金銭の管理			見守り、一部介助
5-5	電話の利用		B2項目群	
5-6	日常の意思決定		7 ト	こだわり
意思疎通			7 ナ	多動・行動停止
6-1	視力	ほとんど見えず	7 ニ	不安定な行動
6-2	聴力		7 ヌ	自ら叩く等の行為
6-3ア	意思の伝達		7 ネ	他を叩く等の行為
6-4ア	指示への反応		7 ノ	興味等による行動
6-5ア	毎日の日課を理解		7 ハ	通常と違う声
6-5イ	生年月日をいう		7 ヒ	突発的行動
6-5ウ	短期記憶	できない	7 ホ	反復的行動
6-5エ	自分の名前をいう		C項目群	
6-5オ	今の季節を理解		6-3-1	独自の意思伝達
6-5カ	場所の理解		6-4-1	説明の理解
3 中間評価項目得点表			7 フ	過食、反すう等
麻痺拘縮	移動	複雑動作	7 ヘ	憂鬱で悲観的
71.7	87.5	99.9	7 マ	対人面の不安緊張
		100.0	7 ミ	意欲が乏しい
		93.3	7 ム	話がまとまらない
		80.9	7 メ	集中力が続かない
		91.8	7 モ	自己の過大評価
			7 ヤ	疑い深く拒否的
			9-8	文字の視覚的認識

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
71.7	87.5	99.9	100.0	93.3	80.9	91.8

7 フ	過食、反すう等	週に1回以上
7 ヘ	憂鬱で悲観的	
7 マ	対人面の不安緊張	
7 ミ	意欲が乏しい	ときどきある
7 ム	話がまとまらない	ときどきある
7 メ	集中力が続かない	
7 モ	自己の過大評価	
7 ヤ	疑い深く拒否的	
9-8	文字の視覚的認識	一部介助

区分2 → 区分3 その2

(事例)

- 45歳 男性 最重度知的障害
- 発音が不明瞭で、しかも会話の内容がまとまらないため相手に伝わらない。
- 日常生活全般にわたり能力が低下してきている。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分2	区分2	区分3
障害程度区分基準時間:	39.9分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	2.4分	2.7分	4.2分	14.7分	0.4分	5.7分	9.1分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>							
1-1	麻痺(左-上肢)			7 ア	被害的		
	麻痺(右-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(左-下肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(右-下肢)			7 エ	感情が不安定		ときどきある
	麻痺(その他)			7 オ	昼夜逆転		
1-2	拘縮(肩関節)			7 カ	暴言暴行		ときどきある
	拘縮(肘関節)			7 キ	同じ話をする		ときどきある
	拘縮(股関節)			7 ク	大声を出す		ときどきある
	拘縮(膝関節)			7 ケ	介護に抵抗		
	拘縮(足関節)			7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(その他)			7 サ	落ち着きなし		
				7 シ	外出して戻れない		
<b>移動</b>							
2-1	寝返り			7 ス	1人で出たがる		
2-2	起き上がり			7 セ	収集癖		
2-3	座位保持			7 ソ	火の不始末		
2-4	両足での立位			7 タ	物や衣類を壊す		
2-5	歩行			7 チ	不潔行為		
2-6	移乗			7 ツ	異食行動		
2-7	移動			7 テ	ひどい物忘れ		
<b>複雑動作</b>				<b>特別な医療</b>			
3-1	立ち上がり			8-1	点滴の管理		
3-2	片足での立位			8-2	中心静脈栄養		
3-3	洗身			8-3	透析		
<b>特別介護</b>				8-4 ストーマの処置			
4-1 ア.	じょくそう			8-5	酸素療法		
4-1 イ.	皮膚疾患		ある	8-6	レスピレーター		
4-2	えん下			8-7	気管切開の処置		
4-3	食事摂取			8-8	疼痛の看護		
4-4	飲水			8-9	経管栄養		
4-5	排尿			8-10	モニター測定		
4-6	排便			8-11	じょくそうの処置		
				8-12	カテーテル		
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1 ア.	口腔清潔			9-1	調理		見守り、一部介助
5-1 イ.	洗顔			9-2	食事の配下膳		見守り、一部介助
5-1 ウ.	整髪			9-3	掃除		見守り、一部介助
5-1 エ.	つめ切り		一部介助	9-4	洗濯		見守り、一部介助
5-2 ア.	上衣の着脱		見守り等	9-5	入浴の準備片付け		見守り、一部介助
5-2 イ.	ズボン等の着脱		見守り等	9-6	買い物		見守り、一部介助
5-3	薬の内服		一部介助	9-7	交通手段の利用		見守り、一部介助
5-4	金銭の管理		一部介助	<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用		一部介助	7 ト	こだわり		
5-6	日常の意思決定		特別な場合以外可	7 ナ	多動・行動停止		
<b>意思疎通</b>				7 ニ	不安定な行動		
6-1	視力			7 ヌ	自ら叩く等の行為		
6-2	聴力			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3 ア.	意思の伝達		ときどきできる	7 ノ	興味等による行動		
6-4 ア.	指示への反応		ときどき通じる	7 ハ	通常と違う声		
6-5 ア.	毎日の日課を理解			7 ヒ	突発的行動		
6-5 イ.	生年月日をいう			7 ホ	反復的行動		
6-5 ウ.	短期記憶			<b>C項目群</b>			
6-5 エ.	自分の名前をいう			6-3-1	独自の意思伝達		
6-5 オ.	今の季節を理解			6-4-1	説明の理解		
6-5 カ.	場所の理解			7 フ	過食、反すう等		
<b>3 中間評価項目得点表</b>				7 ヘ	憂鬱で悲観的		
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 マ	対人面の不安緊張		
100.0	100.0	99.9	98.1	7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		ある
				7 メ	集中力が続かない		ある
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	98.1	61.3	86.3	91.2

7 ヨ	過食、反すう等		
7 ヘ	憂鬱で悲観的		
7 マ	対人面の不安緊張		
7 ミ	意欲が乏しい		
7 ム	話がまとまらない		ある
7 メ	集中力が続かない		ある
7 モ	自己の過大評価		
7 ヤ	疑い深く拒否的		
9-8	文字の視覚的認識		

区分2 → 区分3 その3

(事例)

○50歳 男性 統合失調症  
○2軸評価 精神症状3点、能力障害2点

判定結果:	プロセスⅠ 区分2	プロセスⅡ 区分2	2次判定 区分3
障害程度区分基準時間:	37.7分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	0.5分	1.0分	9.2分	14.7分	2.6分	1.5分	7.5分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
麻痺拘縮				7 ア	被害的		
1-1	麻痺(左-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(右-上肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(左-下肢)			7 エ	感情が不安定	ときどきある	
	麻痺(右-下肢)			7 オ	昼夜逆転		
	麻痺(その他)			7 カ	暴言暴行	ときどきある	
1-2	拘縮(肩関節)			7 キ	同じ話をする		
	拘縮(肘関節)			7 ク	大声を出す		
	拘縮(股関節)			7 ケ	介護に抵抗	ときどきある	
	拘縮(膝関節)			7 コ	常時の徘徊	ときどきある	
	拘縮(足関節)			7 サ	落ち着きなし		
	拘縮(その他)			7 シ	外出して戻れない	ときどきある	
移動				7 ス	1人で出たがる		
2-1	寝返り			7 セ	収集癖		
2-2	起き上がり			7 ソ	火の不始末		
2-3	座位保持			7 タ	物や衣類を壊す		
2-4	両足での立位			7 チ	不潔行為		
2-5	歩行			7 ツ	異食行動		
2-6	移乗			7 テ	ひどい物忘れ	ときどきある	
2-7	移動			特別な医療			
複雑動作				8-1	点滴の管理		
3-1	立ち上がり			8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位		支えが必要	8-3	透析		
3-3	洗身			8-4	ストーマの処置		
特別介護				8-5	酸素療法		
4-1 ア.	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1 イ.	皮膚疾患			8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下			8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取			8-9	経管栄養		
4-4	飲水			8-10	モニター測定		
4-5	排尿			8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便			8-12	カテーテル		
身の回り				B1項目群			
5-1ア.	口腔清潔			9-1	調理	見守り、一部介助	
5-1イ.	洗顔			9-2	食事の配下膳	見守り、一部介助	
5-1ウ.	整髪			9-3	掃除		
5-1エ.	つめ切り			9-4	洗濯		
5-2ア.	上衣の着脱			9-5	入浴の準備片付け		
5-2イ.	ズボン等の着脱			9-6	買い物		
5-3	薬の内服			9-7	交通手段の利用	見守り、一部介助	
5-4	金銭の管理		一部介助	B2項目群			
5-5	電話の利用			7 ト	こだわり	ときどきある	
5-6	日常の意思決定			7 ナ	多動・行動停止		
意思疎通				7 ニ	不安定な行動	週に1回以上	
6-1	視力			7 ヌ	自ら叩く等の行為		
6-2	聴力			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3-ア	意思の伝達			7 ノ	興味等による行動		
6-4-ア	指示への反応			7 ハ	通常と違う声		
6-5ア.	毎日の日課を理解			7 ヒ	突発的行動	希にある	
6-5イ.	生年月日をいう			7 ホ	反復的行動		
6-5ウ.	短期記憶		できない	C項目群			
6-5エ.	自分の名前をいう			6-3-イ	独自の意思伝達		
6-5オ.	今の季節を理解			6-4-イ	説明の理解		
6-5カ.	場所の理解			7 フ	過食、反すう等		
3 中間評価項目得点表				7 ヘ	憂鬱で悲観的	ときどきある	
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 マ	対人面の不安緊張		
100.0	100.0	74.2	100.0	7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		
				7 メ	集中力が続かない		
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的	ときどきある	
				9-8	文字の視覚的認識		



区分3 → 区分4 その1

(事例)

○55歳 女性 肢体不自由・視覚障害・最重度知的障害  
 ○日中はほとんど外出しない。身体に執着し、血が出るまで爪を切ったりほくろをきったりすることがある。環境の変化と集団生活に適應できない。

判定結果:	プロセスⅠ 区分3	プロセスⅡ 区分3	2次判定 区分4
障害程度区分基準時間:	64.4分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
5.7分	10.5分	13.8分	16.4分	5.1分	2.2分	5.0分	5.7分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>			
1-1	麻痺(左-上肢)		
	麻痺(右-上肢)		
	麻痺(左-下肢)		
	麻痺(右-下肢)		
	麻痺(その他)		
1-2	拘縮(肩関節)		
	拘縮(肘関節)		
	拘縮(股関節)		
	拘縮(膝関節)		ある
	拘縮(足関節)		
<b>移動</b>			
2-1	寝返り		
2-2	起き上がり		
2-3	座位保持		
2-4	両足での立位		
2-5	歩行		
2-6	移乗		
2-7	移動		見守り等
<b>複雑動作</b>			
3-1	立ち上がり		つかまれば可
3-2	片足での立位		支えが必要
3-3	洗身		一部介助
<b>特別介護</b>			
4-1ア	じょくそう		
4-1イ	皮膚疾患		ある
4-2	えん下		
4-3	食事摂取		一部介助
4-4	飲水		見守り等
4-5	排尿		見守り等
4-6	排便		一部介助
<b>身の回り</b>			
5-1ア	口腔清潔		一部介助
5-1イ	洗顔		一部介助
5-1ウ	整髪		一部介助
5-1エ	つめ切り		一部介助
5-2ア	上衣の着脱		一部介助
5-2イ	ズボン等の着脱		一部介助
5-3	薬の内服		一部介助
5-4	金銭の管理		全介助
5-5	電話の利用		全介助
5-6	日常の意思決定		日常的に困難
<b>意思疎通</b>			
6-1	視力		目の前が見える
6-2	聴力		
6-3-ア	意思の伝達		ときどきできる
6-4-ア	指示への反応		ときどき通じる
6-5ア	毎日の日課を理解		
6-5イ	生年月日をいう		できない
6-5ウ	短期記憶		
6-5エ	自分の名前をいう		
6-5オ	今の季節を理解		できない
6-5カ	場所の理解		

行動		調査結果	
7ア	被害的		ある
7イ	作話		
7ウ	幻視幻聴		ある
7エ	感情が不安定		ある
7オ	昼夜逆転		
7カ	暴言暴行		ある
7キ	同じ話をする		
7ク	大声を出す		ある
7ケ	介護に抵抗		ある
7コ	常時の徘徊		
7サ	落ち着きなし		
7シ	外出して戻れない		
7ス	1人で出たがる		ときどきある
7セ	収集癖		
7ソ	火の不始末		
7タ	物や衣類を壊す		
7チ	不潔行為		
7ツ	異食行動		
7テ	ひどい物忘れ		
<b>特別な医療</b>			
8-1	点滴の管理		
8-2	中心静脈栄養		
8-3	透析		
8-4	ストーマの処置		
8-5	酸素療法		
8-6	レスピレーター		
8-7	気管切開の処置		
8-8	疼痛の看護		
8-9	経管栄養		
8-10	モニター測定		
8-11	じょくそうの処置		
8-12	カテーテル		

B1項目群		
9-1	調理	全介助
9-2	食事の配下膳	全介助
9-3	掃除	全介助
9-4	洗濯	全介助
9-5	入浴の準備片付け	全介助
9-6	買い物	全介助
9-7	交通手段の利用	全介助

B2項目群		
7ト	こだわり	ある
7ナ	多動・行動停止	
7ニ	不安定な行動	ほぼ毎日
7ヌ	自ら叩く等の行為	希にある
7ネ	他を叩く等の行為	
7ノ	興味等による行動	
7ハ	通常と違う声	
7ヒ	突発的行動	
7ホ	反復的行動	ある

C項目群		
6-3-イ	独自の意思伝達	ときどきできる
6-4-イ	説明の理解	ときどきできる
7フ	過食、反すう等	ほぼ毎日
7ヘ	憂鬱で悲観的	
7マ	対人面の不安緊張	
7ミ	意欲が乏しい	ある
7ム	話がまとまらない	
7メ	集中力が続かない	
7モ	自己の過大評価	
7ヤ	疑い深く拒否的	
9-8	文字の視覚的認識	一部介助

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
80.5	90.8	44.0	54.7	36.5	60.4	67.9

区分3 →区分4 その2

(事例)

○20歳 女性 最重度知的障害  
 ○身長145cm、体重78kgと肥満である。  
 ○昨年までてんかん発作があったが、現在は服薬で治まっている。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分3	区分3	区分4
障害程度区分基準時間:	60.9分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
4.3分	10.5分	13.8分	17.1分	4.0分	5.7分	2.2分	3.3分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				<b>行動</b>			
1-1	麻痺(左-上肢)			7 ア	被害的		
	麻痺(右-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(左-下肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(右-下肢)			7 エ	感情が不安定		
	麻痺(その他)			7 オ	昼夜逆転		
1-2	拘縮(肩関節)			7 カ	暴言暴行		ある
	拘縮(肘関節)			7 キ	同じ話をする		ある
	拘縮(股関節)			7 ク	大声を出す		ときどきある
	拘縮(膝関節)			7 ケ	介護に抵抗		ある
	拘縮(足関節)			7 コ	常時の徘徊		ある
	拘縮(その他)			7 サ	落ち着きなし		
				7 シ	外出して戻れない		ある
<b>移動</b>				<b>特別な医療</b>			
2-1	寝返り			7 ス	1人で出たがる		
2-2	起き上がり			7 セ	収集癖		
2-3	座位保持			7 ソ	火の不始末		
2-4	両足での立位			7 タ	物や衣類を壊す		
2-5	歩行			7 チ	不潔行為		
2-6	移乗			7 ツ	異食行動		ときどきある
2-7	移動			7 テ	ひどい物忘れ		
<b>複雑動作</b>				8-1 点滴の管理			
3-1	立ち上がり			8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位			8-3	透析		
3-3	洗身		全介助	8-4	スーマの処置		
<b>特別介護</b>				8-5 酸素療法			
4-1 ア.	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1 イ.	皮膚疾患		ある	8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下			8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取		見守り等	8-9	経管栄養		
4-4	飲水		見守り等	8-10	モニター測定		
4-5	排尿		見守り等	8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便		一部介助	8-12	カテーテル		
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1 ア.	口腔清潔		全介助	9-1	調理		全介助
5-1 イ.	洗顔		全介助	9-2	食事の配下膳		全介助
5-1 ウ.	整髪		全介助	9-3	掃除		全介助
5-1 エ.	つめ切り		全介助	9-4	洗濯		全介助
5-2 ア.	上衣の着脱		一部介助	9-5	入浴の準備片付け		全介助
5-2 イ.	ズボン等の着脱		一部介助	9-6	買い物		全介助
5-3	薬の内服		一部介助	9-7	交通手段の利用		全介助
5-4	金銭の管理		全介助	<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用		全介助	7 ト	こだわり		
5-6	日常の意思決定		できない	7 ナ	多動・行動停止		ほぼ毎日
<b>意思疎通</b>				7 ニ	不安定な行動		希にある
6-1	視力			7 ヌ	自ら叩く等の行為		ほぼ毎日
6-2	聴力			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3 ア	意思の伝達		ほとんど不可	7 ノ	興味等による行動		希にある
6-4 ア	指示への反応		ときどき通じる	7 ハ	通常と違う声		希にある
6-5 ア.	毎日の日課を理解		できない	7 ヒ	突発的行動		
6-5 イ.	生年月日をいう		できない	7 ホ	反復的行動		
6-5 ウ.	短期記憶		できない	<b>C項目群</b>			
6-5 エ.	自分の名前をいう		できない	6-3-1	独自の意思伝達		ときどきできる
6-5 オ.	今の季節を理解		できない	6-4-1	説明の理解		ときどきできる
6-5 カ.	場所の理解		できない	7 フ	過食、反すう等		希にある

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	77.0	58.4	13.3	36.9	70.5

7 マ	対人面の不安緊張		
7 ミ	意欲が乏しい		
7 ム	話がまとまらない		
7 メ	集中力が続かない		ある
7 モ	自己の過大評価		
7 ヤ	疑い深く拒否的		
9-8	文字の視覚的認識		

区分3 → 区分4 その3

(事例)

○60歳 男性 幻聴、てんかん発作あり。  
○2軸評価 精神症状4点、能力障害4点

判定結果:	プロセス I 区分3	プロセス II 区分3	2次判定 区分4
障害程度区分基準時間:	53.0分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
0.7分	8.7分	6.0分	14.0分	4.8分	2.6分	7.1分	9.1分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果
<b>麻痺拘縮</b>		
1-1	麻痺(左-上肢)	ある
	麻痺(右-上肢)	
	麻痺(左-下肢)	ある
	麻痺(右-下肢)	
	麻痺(その他)	
1-2	拘縮(肩関節)	ある
	拘縮(肘関節)	
	拘縮(股関節)	
	拘縮(膝関節)	
	拘縮(足関節)	
<b>移動</b>		
2-1	寝返り	
2-2	起き上がり	つかまれば可
2-3	座位保持	自分で支えれば可
2-4	両足での立位	
2-5	歩行	つかまれば可
2-6	移乗	
2-7	移動	見守り等
<b>複雑動作</b>		
3-1	立ち上がり	つかまれば可
3-2	片足での立位	支えが必要
3-3	洗身	一部介助
<b>特別介護</b>		
4-1ア.	じょくそう	
4-1イ.	皮膚疾患	
4-2	えん下	
4-3	食事摂取	
4-4	飲水	
4-5	排尿	見守り等
4-6	排便	見守り等
<b>身の回り</b>		
5-1ア.	口腔清潔	全介助
5-1イ.	洗顔	一部介助
5-1ウ.	整髪	一部介助
5-1エ.	つめ切り	全介助
5-2ア.	上衣の着脱	見守り等
5-2イ.	ズボン等の着脱	見守り等
5-3	薬の内服	全介助
5-4	金銭の管理	一部介助
5-5	電話の利用	
5-6	日常の意思決定	特別な場合以外可
<b>意思疎通</b>		
6-1	視力	
6-2	聴力	
6-3ア.	意思の伝達	ときどきできる
6-4ア.	指示への反応	
6-5ア.	毎日の日課を理解	
6-5イ.	生年月日をいう	
6-5ウ.	短期記憶	
6-5エ.	自分の名前をいう	
6-5オ.	今の季節を理解	
6-5カ.	場所の理解	

行動		調査結果
7ア	被害的	
7イ	作話	ときどきある
7ウ	幻視幻聴	
7エ	感情が不安定	
7オ	昼夜逆転	ときどきある
7カ	暴言暴行	
7キ	同じ話をする	
7ク	大声を出す	
7ケ	介護に抵抗	ときどきある
7コ	常時の徘徊	ときどきある
7サ	落ち着きなし	
7シ	外出して戻れない	ときどきある
7ス	1人で出たがる	ときどきある
7セ	収集癖	
7ソ	火の不始末	ときどきある
7タ	物や衣類を壊す	ときどきある
7チ	不潔行為	
7ツ	異食行動	
7テ	ひどい物忘れ	ときどきある
<b>特別な医療</b>		
8-1	点滴の管理	
8-2	中心静脈栄養	
8-3	透析	
8-4	ストマの処置	
8-5	酸素療法	
8-6	レスピレーター	
8-7	気管切開の処置	
8-8	疼痛の看護	
8-9	経管栄養	
8-10	モニター測定	
8-11	じょくそうの処置	
8-12	カテーテル	

B1項目群		調査結果
9-1	調理	全介助
9-2	食事の配下膳	全介助
9-3	掃除	全介助
9-4	洗濯	全介助
9-5	入浴の準備片付け	見守り、一部介助
9-6	買い物	見守り、一部介助
9-7	交通手段の利用	見守り、一部介助

B2項目群		調査結果
7ト	こだわり	
7ナ	多動・行動停止	希にある
7ニ	不安定な行動	
7ヌ	自ら叩く等の行為	
7ネ	他を叩く等の行為	
7ノ	興味等による行動	
7ハ	通常と違う声	
7ヒ	突発的行動	希にある
7ホ	反復的行動	

C項目群		調査結果
6-3-1	独自の意思伝達	
6-4-1	説明の理解	
7フ	過食、反すう等	
7ヘ	憂鬱で悲観的	ときどきある
7マ	対人面の不安緊張	
7ミ	意欲が乏しい	ときどきある
7ム	話がまとまらない	
7メ	集中力が続かない	ときどきある
7モ	自己の過大評価	
7ヤ	疑い深く拒否的	ときどきある
9-8	文字の視覚的認識	

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
71.7	62.3	44.0	81.3	40.5	94.4	80.2

区分4 →区分5 その1

(事例)

○20歳 女性 肢体不自由・重度知的障害  
○行動障害あり。

判定結果:	プロセスⅠ 区分4	プロセスⅡ 区分4	2次判定 区分5
障害程度区分基準時間:	82.7分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
16.0分	12.4分	8.8分	14.0分	13.7分	5.0分	7.1分	5.7分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				<b>行動</b>			
1-1	麻痺(左-上肢)			7 ア	被害的		
	麻痺(右-上肢)		あり	7 イ	作話		
	麻痺(左-下肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(右-下肢)		あり	7 エ	感情が不安定		ときどきある
	麻痺(その他)			7 オ	昼夜逆転		ときどきある
1-2	拘縮(肩関節)			7 カ	暴言暴行		
	拘縮(肘関節)			7 キ	同じ話をする		
	拘縮(股関節)			7 ク	大声を出す		ときどきある
	拘縮(膝関節)			7 ケ	介護に抵抗		ときどきある
	拘縮(足関節)			7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(その他)			7 サ	落ち着きなし		ときどきある
<b>移動</b>				<b>特別な医療</b>			
2-1	寝返り			7 ス	1人で出たがる		
2-2	起き上がり			7 セ	収集癖		
2-3	座位保持			7 ソ	火の不始末		ある
2-4	両足での立位			7 タ	物や衣類を壊す		ときどきある
2-5	歩行			7 チ	不潔行為		
2-6	移乗			7 ツ	異食行動		
2-7	移動		見守り等	7 テ	ひどい物忘れ		ある
<b>複雑動作</b>				8-1 点滴の管理			
3-1	立ち上がり			8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位		できない	8-3	透析		
3-3	洗身		全介助	8-4	ストマの処置		
<b>特別介護</b>				8-5 酸素療法			
4-1 ア	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1 イ	皮膚疾患			8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下			8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取		一部介助	8-9	経管栄養		
4-4	飲水			8-10	モニター測定		
4-5	排尿			8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便		一部介助	8-12	カテーテル		
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1 ア	口腔清潔		全介助	9-1	調理		全介助
5-1 イ	洗顔		全介助	9-2	食事の配下膳		見守り、一部介助
5-1 ウ	整髪		全介助	9-3	掃除		全介助
5-1 エ	つめ切り		全介助	9-4	洗濯		全介助
5-2 ア	上衣の着脱		見守り等	9-5	入浴の準備片付け		全介助
5-2 イ	ズボン等の着脱		見守り等	9-6	買い物		全介助
5-3	薬の内服		全介助	9-7	交通手段の利用		全介助
5-4	金銭の管理		全介助	<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用		全介助	7 ト	こだわり		ある
5-6	日常の意思決定		できない	7 ナ	多動・行動停止		希にある
<b>意思疎通</b>				7 ニ			
6-1	視力			不安定な行動			
6-2	聴力			希にある			
6-3-ア	意思の伝達		ほとんど不可	7 ヌ	自ら叩く等の行為		
6-4-ア	指示への反応			7 ネ	他を叩く等の行為		希にある
6-5-ア	毎日の日課を理解			7 ノ	興味等による行動		
6-5-イ	生年月日をいう		できない	7 ハ	通常と違う声		
6-5-ウ	短期記憶			7 ヒ	突発的行動		
6-5-エ	自分の名前をいう			7 ホ	反復的行動		
6-5-オ	今の季節を理解		できない	<b>C項目群</b>			
6-5-カ	場所の理解			6-3-イ	独自の意思伝達		
				6-4-イ	説明の理解		
				7 フ	過食、反すう等		
				7 ヘ	憂鬱で悲観的		ときどきある
				7 マ	対人面の不安緊張		
				7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		ある
				7 メ	集中力が続かない		
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
87.5	90.8	45.3	75.7	10.8	75.7	75.9

区分4 →区分5 その2

(事例)

○25歳 男性 重度知的障害  
○自閉症

判定結果:	プロセスⅠ 区分4	プロセスⅡ 区分4	2次判定 区分5
障害程度区分基準時間:	79.0分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
4.3分	18.1分	15.7分	18.1分	11.6分	5.7分	2.2分	3.3分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				<b>行動</b>			
1-1	麻痺(左-上肢)			7 ア	被害的		
	麻痺(右-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(左-下肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(右-下肢)			7 エ	感情が不安定	ある	
	麻痺(その他)			7 オ	昼夜逆転	ある	
1-2	拘縮(肩関節)			7 カ	暴言暴行	ある	
	拘縮(肘関節)			7 キ	同じ話をする	ある	
	拘縮(股関節)			7 ク	大声を出す	ある	
	拘縮(膝関節)			7 ケ	介護に抵抗	ある	
	拘縮(足関節)			7 コ	常時の徘徊	ある	
	拘縮(その他)			7 サ	落ち着きなし		
<b>移動</b>				7 シ	外出して戻れない		ときどきある
2-1	寝返り			7 ス	1人で出たがる		
2-2	起き上がり			7 セ	収集癖		
2-3	座位保持			7 ソ	火の不始末		
2-4	両足での立位			7 タ	物や衣類を壊す	ある	
2-5	歩行			7 チ	不潔行為	ある	
2-6	移乗		見守り等	7 ツ	異食行動	ある	
2-7	移動		見守り等	7 テ	ひどい物忘れ		
<b>複雑動作</b>				<b>特別な医療</b>			
3-1	立ち上がり			8-1	点滴の管理		
3-2	片足での立位			8-2	中心静脈栄養		
3-3	洗身		全介助	8-3	透析		
<b>特別介護</b>				8-4	ストーマの処置		
4-1 ア.	じょくそう			8-5	酸素療法		
4-1 イ.	皮膚疾患		ある	8-6	レスピレーター		
4-2	えん下			8-7	気管切開の処置		
4-3	食事摂取			8-8	疼痛の看護		
4-4	飲水		一部介助	8-9	経管栄養		
4-5	排尿			8-10	モニター測定		
4-6	排便		一部介助	8-11	じょくそうの処置		
<b>身の回り</b>				8-12	カテーテル		
5-1ア.	口腔清潔		全介助	<b>B1項目群</b>			
5-1イ.	洗顔		全介助	9-1	調理		全介助
5-1ウ.	整髪		全介助	9-2	食事の配下膳		全介助
5-1エ.	つめ切り		全介助	9-3	掃除		全介助
5-2ア.	上衣の着脱		一部介助	9-4	洗濯		全介助
5-2イ.	ズボン等の着脱		一部介助	9-5	入浴の準備片付け		全介助
5-3	薬の内服		一部介助	9-6	買い物		全介助
5-4	金銭の管理		全介助	9-7	交通手段の利用		全介助
5-5	電話の利用		全介助	<b>B2項目群</b>			
5-6	日常の意思決定		できない	7 ト	こだわり		ある
<b>意思疎通</b>				7 ナ	多動・行動停止		ほぼ毎日
6-1	視力			7 ニ	不安定な行動		ほぼ毎日
6-2	聴力			7 ハ	自ら叩く等の行為		ほぼ毎日
6-3ア	意思の伝達		ほとんど不可	7 ネ	他を叩く等の行為		ほぼ毎日
6-4ア	指示への反応		通じない	7 ノ	興味等による行動		
6-5ア	毎日の日課を理解		できない	7 ハ	通常と違う声		日に1回以上
6-5イ.	生年月日をいう		できない	7 ヒ	突発的行動		日に1回以上
6-5ウ.	短期記憶		できない	7 ホ	反復的行動		ある
6-5エ.	自分の名前をいう		できない	<b>C項目群</b>			
6-5オ.	今の季節を理解		できない	6-3-イ	独自の意思伝達		ほとんど不可
6-5カ.	場所の理解		できない	6-4-イ	説明の理解		できない
<b>3 中間評価項目得点表</b>				7 フ	過食、反すう等		週に1回以上
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 ヘ	憂鬱で悲観的		
100.0	82.5	77.0	73.3	7 マ	対人面の不安緊張		
				7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		ある
				7 メ	集中力が続かない		ある
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	82.5	77.0	73.3	13.3	32.3	45.8

区分5 → 区分6 その1

(事例)

○25歳 女性 肢体不自由  
○両上下肢の不随意運動が強い。不安傾向があるため服薬中。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分5	区分5	区分6
障害程度区分基準時間:	107.1分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
5.7分	23.7分	29.5分	23.3分	13.2分	0.1分	2.5分	9.1分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>				<b>7 ア</b> 被害的			
1-1	麻痺(左-上肢)		ある	7 イ	作話		
	麻痺(右-上肢)		ある	7 ウ	幻視幻聴		ある
	麻痺(左-下肢)		ある	7 エ	感情が不安定		ある
	麻痺(右-下肢)		ある	7 オ	昼夜逆転		
	麻痺(その他)			7 カ	暴言暴行		
1-2	拘縮(肩関節)			7 キ	同じ話をする		
	拘縮(肘関節)			7 ク	大声を出す		
	拘縮(股関節)		ある	7 ケ	介護に抵抗		ときどきある
	拘縮(膝関節)			7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(足関節)			7 サ	落ち着きなし		
	拘縮(その他)			7 シ	外出して戻れない		
<b>移動</b>				7 ス	1人で出たがる		
2-1	寝返り		つかまれば可	7 セ	収集癖		
2-2	起き上がり		つかまれば可	7 ソ	火の不始末		
2-3	座位保持		支えが必要	7 タ	物や衣類を壊す		ある
2-4	両足での立位		支えが必要	7 チ	不潔行為		
2-5	歩行		できない	7 ツ	異食行動		
2-6	移乗		一部介助	7 テ	ひどい物忘れ		
2-7	移動		全介助	<b>特別な医療</b>			
<b>複雑動作</b>				8-1	点滴の管理		
3-1	立ち上がり		できない	8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位		できない	8-3	透析		
3-3	洗身		一部介助	8-4	ストーマの処置		
<b>特別介護</b>				8-5	酸素療法		
4-1 ア.	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1 イ.	皮膚疾患		ある	8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下			8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取		一部介助	8-9	経管栄養		
4-4	飲水		見守り等	8-10	モニター測定		
4-5	排尿		全介助	8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便		全介助	8-12	カテーテル		
<b>身の回り</b>				<b>B1項目群</b>			
5-1ア.	口腔清潔		一部介助	9-1	調理		全介助
5-1イ.	洗顔		一部介助	9-2	食事の配下膳		全介助
5-1ウ.	整髪		全介助	9-3	掃除		全介助
5-1エ.	つめ切り		全介助	9-4	洗濯		全介助
5-2ア.	上衣の着脱		一部介助	9-5	入浴の準備片付け		全介助
5-2イ.	ズボン等の着脱		全介助	9-6	買い物		全介助
5-3	薬の内服		一部介助	9-7	交通手段の利用		全介助
5-4	金銭の管理		一部介助	<b>B2項目群</b>			
5-5	電話の利用		一部介助	7 ト	こだわり		ある
5-6	日常の意思決定		特別な場合以外可	7 ナ	多動・行動停止		
<b>意思疎通</b>				7 ニ	不安定な行動		ほぼ毎日
6-1	視力			7 ホ	自ら叩く等の行為		
6-2	聴力			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3-ア	意思の伝達		ときどきできる	7 ノ	興味等による行動		
6-4-ア	指示への反応			7 ハ	通常と違う声		希にある
6-5ア.	毎日の日課を理解			7 ヒ	突発的行動		
6-5イ.	生年月日をいう			7 ホ	反復的行動		
6-5ウ.	短期記憶			<b>C項目群</b>			
6-5エ.	自分の名前をいう			6-3-イ	独自の意思伝達		ときどきできる
6-5オ.	今の季節を理解		できない	6-4-イ	説明の理解		ときどきできる
6-5カ.	場所の理解			7 フ	過食、反すう等		
<b>3 中間評価項目得点表</b>				7 ヘ	憂鬱で悲観的		ときどきある
麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	7 マ	対人面の不安緊張		ときどきある
67.7	13.7	28.9	47.9	7 ミ	意欲が乏しい		
				7 ム	話がまとまらない		
				7 メ	集中力が続かない		ときどきある
				7 モ	自己の過大評価		
				7 ヤ	疑い深く拒否的		
				9-8	文字の視覚的認識		

区分5 →区分6 その2

(事例)

○20歳 女性 最重度知的障害  
 ○発語なく、うれしいことや悲しいことがあると「アー」、「ギャー」と言う。  
 ○怒ると、本を破る、自分の顔を叩く等の行動が30分程続く。

	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定
判定結果:	区分5	区分5	区分6
障害程度区分基準時間:	109.1分		

食事	排せつ	移動	清潔保持	間接	行動	機能訓練	医療関連
31.0分	23.9分	8.8分	17.1分	3.2分	20.3分	1.5分	3.3分

2 判定調査項目

A項目群		調査結果		行動		調査結果	
麻痺拘縮				7 ア	被害的		
1-1	麻痺(左-上肢)			7 イ	作話		
	麻痺(右-上肢)			7 ウ	幻視幻聴		
	麻痺(左-下肢)			7 エ	感情が不安定	ある	
	麻痺(右-下肢)			7 オ	昼夜逆転		
	麻痺(その他)			7 カ	暴言暴行	ある	
1-2	拘縮(肩関節)			7 キ	同じ話をする	ある	
	拘縮(肘関節)			7 ク	大声を出す	ある	
	拘縮(股関節)			7 ケ	介護に抵抗	ある	
	拘縮(膝関節)	ある		7 コ	常時の徘徊		
	拘縮(足関節)			7 サ	落ち着きなし	ある	
拘縮(その他)			7 シ	外出して戻れない	ある		
移動				7 ス	1人で出たがる	ある	
2-1	寝返り			7 セ	収集癖		
2-2	起き上がり			7 ソ	火の不始末	ある	
2-3	座位保持			7 タ	物や衣類を壊す	ある	
2-4	両足での立位			7 チ	不潔行為	ある	
2-5	歩行			7 ツ	異食行動	ある	
2-6	移乗			7 テ	ひどい物忘れ	ある	
2-7	移動			特別な医療			
複雑動作				8-1	点滴の管理		
3-1	立ち上がり			8-2	中心静脈栄養		
3-2	片足での立位	支えが必要		8-3	透析		
3-3	洗身	全介助		8-4	ストーマの処置		
特別介護				8-5	酸素療法		
4-1 ア.	じょくそう			8-6	レスピレーター		
4-1 イ.	皮膚疾患			8-7	気管切開の処置		
4-2	えん下	見守り等		8-8	疼痛の看護		
4-3	食事摂取	全介助		8-9	経管栄養		
4-4	飲水			8-10	モニター測定		
4-5	排尿	一部介助		8-11	じょくそうの処置		
4-6	排便	一部介助		8-12	カテーテル		
身の回り				B1項目群			
5-1ア.	口腔清潔	全介助		9-1	調理	全介助	
5-1イ.	洗顔	全介助		9-2	食事の配下膳	全介助	
5-1ウ.	整髪	全介助		9-3	掃除	全介助	
5-1エ.	つめ切り	全介助		9-4	洗濯	全介助	
5-2ア.	上衣の着脱	全介助		9-5	入浴の準備片付け	全介助	
5-2イ.	ズボン等の着脱	全介助		9-6	買い物	全介助	
5-3	薬の内服	全介助		9-7	交通手段の利用	全介助	
5-4	金銭の管理	全介助		B2項目群			
5-5	電話の利用	全介助		7 ト	こだわり	ある	
5-6	日常の意思決定	できない		7 ナ	多動・行動停止	ほぼ毎日	
意思疎通				7 ニ	不安定な行動	希にある	
6-1	視力			7 ハ	自ら叩く等の行為	ほぼ毎日	
6-2	聴力			7 ネ	他を叩く等の行為		
6-3-ア	意思の伝達			7 ノ	興味等による行動		
6-4-ア	指示への反応			7 ハ	通常と違う声	日に頻回	
6-5ア.	毎日の日課を理解			7 ヒ	突発的行動		
6-5イ.	生年月日をいう	できない		7 ホ	反復的行動		
6-5ウ.	短期記憶	できない		C項目群			
6-5エ.	自分の名前をいう	できない		6-3-イ	独自の意思伝達		
6-5オ.	今の季節を理解	できない		6-4-イ	説明の理解	ときどきできる	
6-5カ.	場所の理解	できない		7 フ	過食、反すう等	ほぼ毎日	

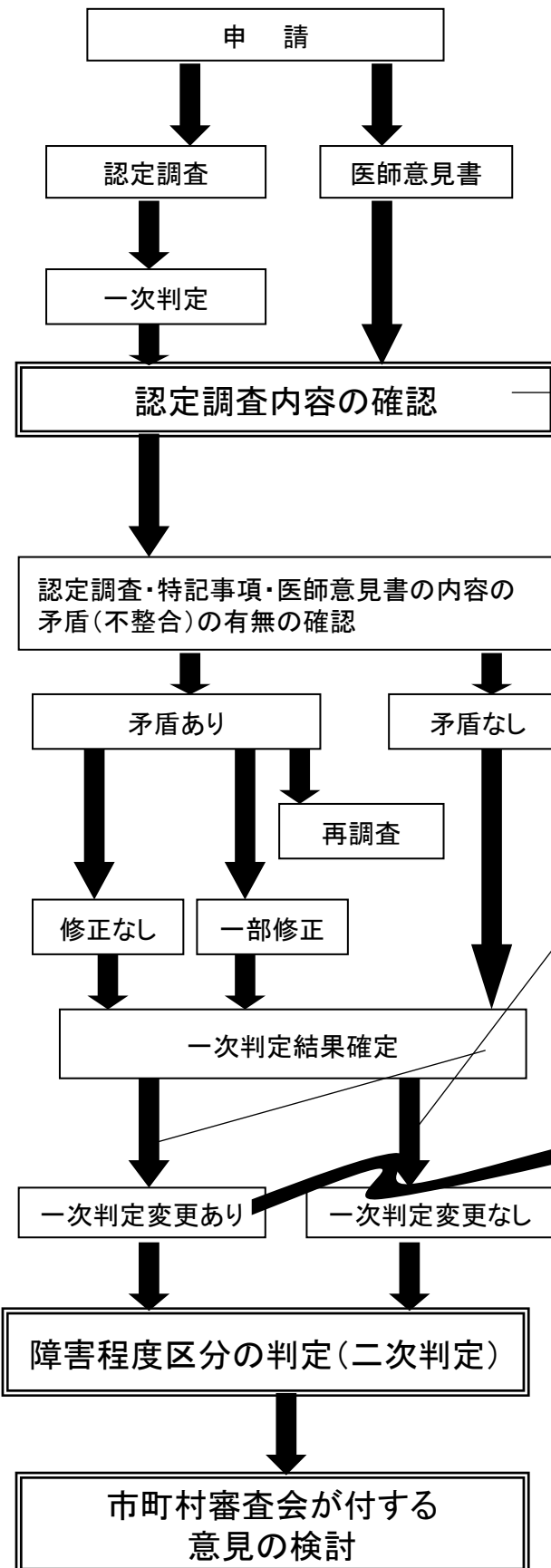
3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
89.5	100.0	51.3	45.7	0.0	60.7	32.0

7 マ	対人面の不安緊張	
7 ミ	意欲が乏しい	
7 ム	話がまとまらない	
7 メ	集中力が続かない	
7 モ	自己の過大評価	
7 ヤ	疑い深く拒否的	
9-8	文字の視覚的認識	

## 検討過程

## 審査資料、参考指標



## 審査資料

認定調査・特記事項・医師意見書

## 審査資料

一次判定結果・特記事項・医師意見書

特記事項・医師意見書・B項目群・C項目群(※)

で検討し、変更が考慮されれば検証

## 参考指標

- ・基準時間の行為の区分毎の時間
- ・区分変更の例

(※)項目群で検討する場合の留意点  
既にB項目群は一次判定において評価されていることから、以下の場合についての変更は不可

- ①B1項目群の項目のチェック状況のみでの変更
- ②79項目の一次判定(プロセスI)で非該当の者の場合、B1、B2項目群の項目のチェック状況のみでの変更